

登米の力

とめのちから

登米の地から

ムスリム対応基礎セミナーを開催しました！

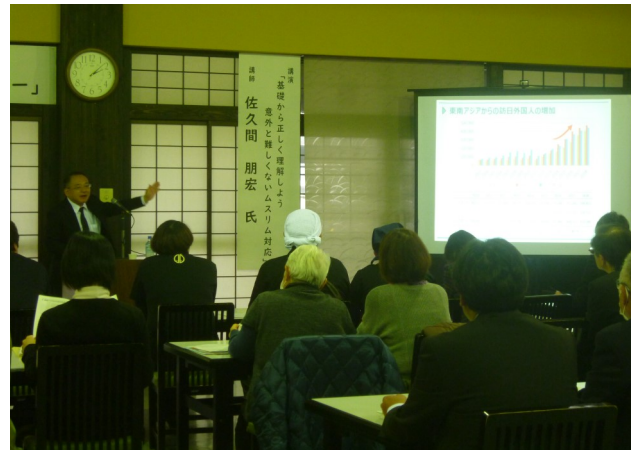
地方振興部

12月2日(月)に「意外と難しくない！ムスリム対応基礎セミナー」を開催しました。

今回のセミナーでは、一般社団法人ハラル・ジャパン協会の代表理事である佐久間明宏氏を講師にお招きし、今後増加が見込まれている訪日ムスリム(世界三大宗教の一つであるイスラム教を信仰する人々のこと)について、生活習慣や食事に関する必要な配慮などを学びました。

セミナーの参加者からは、「難しいと感じていたムスリム対応だったが、大変分かりやすく解説していただき、ハードルが低くなった気がする。」、「大変興味深い内容で参考になった。すぐにできそうなことも多くあった。」などの感想をいただきました。

当部では、今後もムスリムをはじめとする外国人旅行者等の受け入れ体制整備に向けた取り組みを進めていきます。



セミナーの様子

ヴォイストレーニングセミナーを開催しました！

地方振興部

12月11日(水)に登米総合産業高校において、今年度1回目の「ヴォイストレーニングセミナー」を開催し、商業科の1年生22名が参加しました。

このセミナーは、高校生を対象に、発声の仕方や話し方、社会人として必要とされるマナーなどを学んでもらい、将来の登米地域の産業を支える人材を育成することを目的として、毎年開催しているものです。

当日は、講師であるヴォイス&トーク代表の赤間裕子氏から、返事の大切さや好印象を持たせるフェイスアプローチなど、コミュニケーションにおける基本的なポイントについて講義をしていただきました。その後、表情づくりやお辞儀の練習、発声トレーニングなどの演習を行いました。

受講した生徒からは、「表情がとても大切だと分かった。また、話し方だけでも印象が変わることも

分かった。」、「コミュニケーションの必要性や面接などで役に立つことを学ぶことができた。」などの感想があり、多くの生徒にとって今後に生かせる有意義なセミナーとなりました。



セミナーの様子

大嘗祭にて登米市のりんごが供納されました

農業振興部

天皇陛下の皇位継承に伴い実施された「大嘗祭」にて、「庭積の机代物」として登米市の猪股剛さんが育てたりんご（品種：あいかの香り）が供納されました。

猪股さんは、叔父である後藤隆太郎さんと二人三脚で2ha程りんごの栽培管理を行っています。丁寧な管理と、積極的な栽培技術の研鑽に努めており、平成29年度には宮城県農林水産物品評会において、りんごで宮城県知事1等（農

林水産大臣賞）を受賞したほか、平成28、30年度にも同品評会で入賞したことから、県内でも品質の高いりんごを生産する農業者の1人であると評価され、今回供納品の納入者に選ばれました。

11月12日に皇居に直接供納品を持参した猪股さんは、「緊張しましたが、とても良い経験になりました。叔父と2人で日々頑張ってきたことが認められて嬉しい。」と話してくれました。

CSF（豚コレラ）対策の取り組み状況について

東部家畜保健衛生所

平成30年9月から国内ではCSF（豚コレラ）が継続的に発生しています。このため例年実施している家畜伝染病の防疫演習も今年度はCSFの発生を想定して行いました。

演習では、東部地方振興事務所（登米地域事務所）や保健福祉事務所と連携し、CSFの概要、発生時の防疫作業及び役割分担など防疫体制の確認と危機管理意識の強化を図りました。

また、建設業協会登米支部（支部長：猪股研さ

ん）及び登米地域事務所農業農村整備部と連携し、防護服等の着脱や重機を用いた埋却溝の掘削、疑似家畜の投入、石灰散布等の演習も実施しました。

生産者の中には農場周囲に野生イノシシの侵入を防止する柵を設置して防疫効果の強化に努めるところもありますが、引き続き、生産者や関係機関等と連携しながら発生予防に努めていきます。



座学研修



疑似家畜を使った埋却演習

CSF（豚コレラ）とは・・・

CSFウイルスにより起こる豚、いのししの熱性伝染病で、強い伝染力と高い致死率が特徴。治療法はなく、発生した場合の家畜業界への影響が甚大であることから、家畜伝染病予防法の中で家畜伝染病に指定されています。

人に感染することはなく、仮にCSFにかかった豚の肉や内臓を食べても、人体に影響はありません。（※感染した豚の肉が市場に出回ることはありません。）

（農林水産省ホームページより）

伊豆沼2工区地区「れんこん田現地視察」を実施

農業農村整備部

10月23日(水)に東部地方振興事務所登米地域事務所職員や伊豆沼土地改良区職員など計28名が、伊豆沼2工区地区で栽培されているれんこん田を現地視察しました。れんこん田は、農地整備事業「伊豆沼2工区地区」により、平成30年度の区画整理工事で造成された県内で初めてのれんこん田です。今回が初めての収穫となります。



現地視察の様子

当日は、伊豆沼2工区地区の概要説明と若柳蓮根栽培組合から取り組みの説明、収穫したれんこん(加工・調理品)の試食が行われました。

現在、れんこんの生産は順調に拡大されており、今後は良品の定時・定量出荷と栽培面積の拡大を目指して、栽培組合や土地改良区など関係機関が連携しながられんこんの生産振興に努めていきます。



伊豆沼2工区地区で収穫されたれんこん

「親子ふれあい木工教室」を開催しました!

林業振興部

11月23日に登米市森林管理協議会の主催で「親子ふれあい木工教室」が開催され、登米市内から13組の親子36名が参加しました。

参加者は2チームに分かれ、午前・午後と交代で①組手什(くでじゅう)の組み立て、②木製食器(皿・箸・マグカップ・コースター)作りをそ

れぞれ体験しました。

ここで使用した木材は全て登米市FSC認証森林から生産したもので、参加者からは、木工体験に大変満足したほか、登米市の木材産業をとりまく情勢を勉強できたことなど、好評をいただくことができました。



組手什の説明を熱心に聞く子ども達



はっと汁の昼食をいただきました

地域包括ケア関係者研修会 「市民が住み慣れた地域で安心して終末期を迎えるために」

東部保健福祉事務所登米地域事務所

団塊の世代が75歳以上となる2025年を目途に、高齢や要介護状態となっても住み慣れた地域で安心して暮らせるよう、地域包括ケア体制の構築が進められています。

そうした中、住み慣れた自宅や施設での終末期に焦点をあて、高齢者の望む看取りに関係者がどのように関わるべきかを検討する「登米地区地域医療対策委員会主催による研修会」が、12月4日(水)、ホテルニューグランヴィアを会場に開催されました。

研修会には、医師や看護師などの医療従事者のほか、介護支援専門員や介護施設職員、訪問介護員など、日頃高齢者の方と接し日常生活の支援を行っている関係者156名が参加しました。

研修は、はじめに、登米市における在宅医療の現状や在宅や施設での看取り件数の推移など、データに基づく説明がありました。引き続き、シンポジウムとして、米川診療所の木村康一院長から「登米市の在宅看取りを考える」と題してお話をいただきました。その後、木村院長を座長とし、在宅や施設において看取りに携わる方々から、話題提供として、それぞれの立場においての看取りに関する事例や考え方などの発表がありました。

中田・石越地域包括支援センターの石井知香子管理者からは、身寄りのない一人暮らしの方で、在宅での最期を希望している方への支援に関する事例を説明していただきました。本人との信頼関係を築き、保健・医療・福祉関係者と連携し、さらに区長ほか地域の住民の方の理解と協力を得ながら無事看取り

に至ったとのことでした。本人の希望をかなえるため、関係者同士が連携し意識の統一を図り、チームとしてそれぞれが役割を果たした結果であるとお話されていました。

そのほかの話題提供として、特別養護老人ホームみろく苑の氏家誠氏から「特養での看取り介護の取り組みについて」、登米市訪問介護ステーションサテライト米谷の小山美紀氏、鈴木俊子氏から「訪問看護師の在宅看取りケア～最期の思いに寄り添って～」として実際に携わった看取りに関してのお話をいただきました。

参加者からは「看取りに関する理解が深まった」、「本人の意思を尊重することが必要であると感じた」、「他職種による連携が重要であることがわかった」など、多くの意見が出されました。

その後、職種の異なる参加者同士でグループとなり、看取りについての活発な意見交換や交流が図られ、大変有意義な研修会でした。



話題提供の様子

〈登米保健所からのお知らせ〉インフルエンザ警報発令中です！

- 1 咳エチケットを実施しましょう。
 - ・咳やくしゃみを他の人に向けて発しない。
 - ・咳やくしゃみが出るときはできるだけマスクをする。
 - ・咳やくしゃみをするときは、ティッシュやハンカチなどで口と鼻を覆う。
 - ・ティッシュはその都度捨てて、その後は手を洗う。
- 2 外出後、流水・石けんで手洗いをしましょう。(アルコール製剤による手指消毒も効果的です。)
- 3 適度な湿度を保持しましょう。
 - ・乾燥しやすい室内では、加湿器などを活用し適切な湿度(50～60%)を保つようにする。
- 4 睡眠などの十分な休養と、バランスの取れた栄養摂取を心掛けましょう。
- 5 流行期には人混みや繁華街への外出を控えましょう。

きょうめいばん きごう

橋名板の揮毫*にかかる感謝状贈呈式を行いました

*揮毫・・・毛筆で言葉や文章をかくこと。

東部土木事務所登米地域事務所

「みやぎ県北高速幹線道路（佐沼工区）※」で建設中の「紫雲山大橋」と「田ノ尻橋」に取り付ける橋名板の文字を「佐沼小学校」と「北方小学校」の児童の皆さんに書いていただきました。どの橋名板も丁寧に、そしてとても上手に書いていただきました。そこで当事務所では、児童の皆さんに感謝の意を伝えるため、感謝状を贈呈させていただきました。

児童の皆さんにとって、今回の体験は大変貴重なものになったのではないかと考えております。

※ みやぎ県北高速幹線道路は、県北部において東北縦貫道と三陸縦貫自動車道を結び、栗原圏域と登米圏域の交流・連携を強化する地域高規格道路であり、災害時における救命活動や救援物資輸送等を担う延長約24kmの復興支援道路です。そのうち約3.6kmを佐沼工区（登米市迫町北方から佐沼まで）として事業中であり、早期完成に向けて整備を進めています。



北方小学校の皆さん



佐沼小学校の皆さん



令和2年1月発行/宮城県東部地方振興事務所登米地域事務所（地方振興部）
〒987-0511 宮城県登米市迫町佐沼字西佐沼150-5
TEL：0220-22-6123 FAX：0220-22-7522